

## 学会便り

## 令和2年度第1回参与会報告 First meeting of Advisory Committee report

穴見 敏也  
Toshiya ANAMI

2020年11月25日に本年度第1回の参与会を開催した。参与会は、経済産業省製造産業局および軽金属のユーザー企業からなる参与の皆様に参加頂き、ニーズの把握や学会側からの情報発信を目的としており、これまでは会場に集まる形で開催してきた。しかし、7月に予定していた見学会を含む参与会は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けやむなく中止とした。その後も、新型コロナウイルスに関する状況が改善しなかったため、今回は初めてWEB会議システムを用いたオンライン開催とし、産官学いずれにおいても重要度が増しているSDGs（持続可能な開発目標）およびESG（環境、社会、ガバナンス）に関する講演会を企画した。オンライン開催により、移動の時間が不要で参加する場所も問わないことから、多忙な参与や委員の皆様には参加しやすい状況であったことが伺え、講師を含め29名の参加を頂いた。

はじめに、産業側の事例紹介として「アルミニウムのサプライチェーンにおけるサステナビリティへの取り組みについて」と題し、リオテントジャパン株式会社アルミニウム事業部小原雄一郎様にご講演頂いた。「責任あるアルミニウム」による持続可能な未来への貢献”を図るため、プロダクト、アセスメント支援、アシュアランス・認証、トレーサビリティの仕組み、リサイクルの5つが重要であることが示され、それぞれについて具体的な取り組みが紹介された。プロダクトに関しては、二酸化炭素を発生しない世界初のアルミニウム製錬技術 ELYSIS を開発し2024年の商用化を目指していることが、アシュアランス・認証では世界初の認証付き低炭素アルミブランド（RenewAl）やASI（アルミニウム・スチュワードシップ・イニシアチブ）のESG認証を世界最初に取得したことが紹介された。また、パートナーシップ事例として世界最大手の飲料メーカーとの取り組みも紹介された。

次に学側の事例紹介として「長岡技術科学大学におけるSDGsの取り組み」と題し、長岡技術科学大学SDGs推進室室長南口誠教授にご講演頂いた。SDGsの17ゴールを示したイラストは良く知られているが、下位目標として179のターゲット、進捗状況をモニターするため232の指標があること、ゴール・ターゲット・指標というSDGsの取り組みがビジョンから戦略を立てKPI（キー・パフォーマンス・インディケーター）で達成度合いを計測するというビジネス手法と合致していることなどが紹介された。なお、長岡技術科学大学は、国連が任命するゴール別世界SDGsハブ大学17校に東アジアの大学として唯一任命されたことから、2019年11月に



図1 小原様ご講演

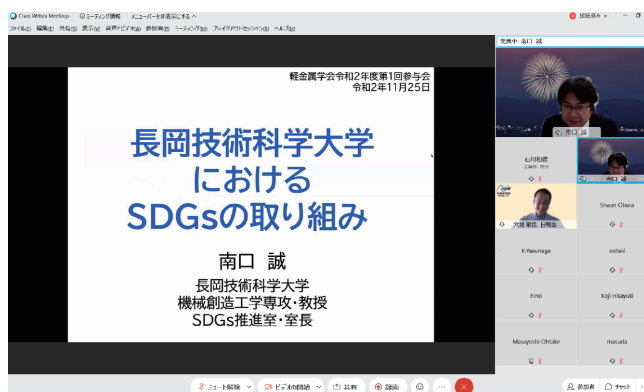


図2 南口先生ご講演

SDGs推進室を設立し、従来から進めていた産学連携教育研究を世界に広げる活動や、ダイバーシティ推進、民間企業との共同研究などをさらに加速させているとの紹介があった。

今回、いずれの講演も非常に興味深い内容であったことから質疑、議論が活発に行われ、参加者にとっても貴重な情報交換の場が提供できたものと思われる。

最後に、資料を用いて2020年度の軽金属学会活動を紹介したが、都合により参与の皆様から学会活動に対する意見・アドバイスを頂く時間が不足した。次回以降は十分な意見交換ができる時間を確保したい。